

## 全国漁業士連絡会議報告

水産業改良普及センター 紫波 俊介

### 1. 日程

平成23年2月28日～29日

### 2. 開催場所

水産庁中央会議室（東京都）

### 3. 参加者

金武漁業協同組合青年漁業士 屋比久 健

### 4. 目的

地域漁業の指導的立場である漁業士に係る全国的な連絡会議を開催することにより相互の情報交換を促進することである。今会議が初開催であったが、都道府県23、62名（漁業士26名、事務局23名、水産庁14名）もの出席があった。

### 5. 内容

#### （1）水産庁による施策説明

「資源管理・漁業所得保障対策」「漁業・漁村の6次産業化」について説明があったが、まだ予算成立前で、内容も変更する可能性があるという事だったため、漁業士も困惑していた。

#### （2）取組事例報告

九州ブロック漁業士研修にて話題になった、知事に対し漁業士が何らかの意見交換を行う場を設けている事例が今会議でも話題となった。

岩手県

- ・特有の活動として、イベントを開催し、なべ料理等を販売。収益を海難遺児へ寄付。
- ・下草刈り活動
- ・知事との意見交換会はある。

静岡県

- ・「後継者育成に貢献する漁業士」にふさわしい活動者は限られている。
- ・3年に1度産業振興部長と懇談会

新潟県

- ・部長との意見交換会

三重県

- ・数年前に一度知事への意見交換会。
- ・漁業士は漁協が推薦している。だから漁業士は青年部・女性部の声も代表して皆さんに届ける責任がある。

徳島県

- ・活動している漁業士は37名中20名程度。
- ・3県漁業士交流会を作り、意見交換・活動を行っている。

青森県

- ・八戸ではホームステイの受け入れを行っている

長崎県

- ・後継者については、安定して水揚げができれば自然についてくる。

鹿児島県

- ・知事への意見交換会。漁業士のガスは抜けるが、漁業士としても今後の活動についていい案が出ない。

- ・異業種との取り組みが今後重要では。各漁業士が行っている取り組みを、各地区毎に発表している。

- ・鹿児島県は活動費に助成金はなく、自ら作り出している。年に数回直売市を行っている。活動資金を得る事と、漁業士会を発信している。自ら販売し、脇に大きなパネルを置いて自分の顔写真や操業写真を見せる。

また、魚の食べ方コンテストを開き、一番

きれいに食べた人がお土産を持って帰る取り組みを行っている。

### (3) 漁業士会全体からの水産庁への要望

国がこのような会議を持つことは良いことだと思う。ただ今後は、これを単なる説明会や漁業士のガス抜きに終わらせるのではなく、漁業者の声を施策に反映させるような有意義な会議にしてもらいたいとの要望で会議は締めくくられた。

### (4) 懇親会

農林水産省地下で開催され、水産庁佐藤長官も会議から懇親会まで参加され、漁業士一人一人に声をかけられていた。



全国漁業士連絡会議



懇親会風景